

## 第4学年 国語科指導案

日時 平成16年 10月27日(水) 5校時  
児童 第4学年 男10名 女9名 計19名  
授業者 教諭 阿部 憲

1. 単元名 「私たちの体について調べよう」(4年 下巻)  
教材名 「体を守る仕組み」 中村 桂子

2. 単元(教材)について

第3学年及び第4学年の国語科の「C読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。さらに、内容においては、「(1)読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。ア いろいろな読み物に興味を持ち、読むこと。イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと。オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意しながら文章を読むこと。」とある。

説明的文章の学習では、4年上巻の「ツバメが住む町」で段落と段落のつながりについて学習している。本教材は「でも・また・ですから」などの接続語が使われていて、文と文、段落と段落のつながり方をわかりやすく示している。ここでは、接続語を手がかりに段落相互のつながり方を学習していく。教材の文章構成は、「話題提示・説明(微生物を体の中へ入れない仕組み)(体の内側での体を守る仕組み)・まとめ」の3つのまとまりで構成されている。また、本教材の最後の段落に筆者の考えが書かれている。本単元で「筆者の考え方を読み取り、自分の考えをもつこと」は、高学年の学習につながる。また、本教材の語りかけるような書き方により、抵抗なく文章が表す内容と児童の実体験を重ねることができる。

本学級の児童は、1学期「段落のつながりに気をつけて読もう。」の単元で、「段落と段落のつながり」について学習した。教材文の中の2つの調査を意識させながら段落と段落をつなげて、まとまりを考えさせた。そのことにより、文章の内容を大まかにとらえることの良さに気づき、文章構成をつかむことができる児童もでてきた。しかしながら、内容理解が不十分な児童もいて、授業後の感想では、文章構成を理解する学習を難しいと感じた児童もいたようである。そこで本教材では、文章理解も大切にしながら、文章構成にも目を向けさせるようにしていきたい。

以上のことから、本単元の指導にあたっては、文と文、段落と段落のつながり方を理解するため、接続語「でも・また・ですから」などに着目させながら、学習を進めたい。それにより、段落のまとまりを考えさせたい。また、文章中に書かれている体を守る仕組みを、重要語句を探すことにより、一人一人に自分で読み取らせたい。教材の最後に筆者の考えにも触れ、それに対する個人の考えを持たせたい。

単元の[ふかめる]段階で学習する「段落の要点や文章のまとまりを考える学習」は、総合的な学習における課題解決の段階の資料を読む場面へつながるものである。また、[まとめる]段階での目的に応じて大きくまとめて読んだり、必要なところは細かい点に注意しながら読むことは、総合的な学習における、課題解決及びまとめる段階の「目的を持って情報をみつけ、調べたことをまとめる学習」につながるものである。

### 3. 学習指導目標

#### 目標

自分たちの体について興味を持ち、段落相互の関係を考えながら文章を正しく読む。

体について疑問に思うことを本を読んで調べる。

調べたり考えたりしたことをまとめて、今の自分を記録する。

#### 関心・意欲・態度

体を守る仕組みに興味を持ち、調べたいことを見つけ意欲的に調べる。

#### 書く能力

体について学習したことや調べたことを、図やカードにまとめて、今の自分を記録する。

体を守る仕組みについて、事典などで調べて材料を集め、選択する。

書こうとすることについて、引用部分をはっきりさせて書く。

#### 読む能力

書かれている内容を正確に読み取るために、各段落の要点や段落相互の関係をつかむ。

筆者の思いに自分の体験を重ね合わせて読み、一人一人の感じ方の違いを知る。

・ 目的に応じて大きくまとめて読んだり、必要なところは細かい点に注意しながら呼んだりする。

・ 疑問に思ったことについて、いろいろな読み物を読む。

#### 言語についての知識・理解・技能

段落相互の関係を示す、接続語について理解し、使う。「でも」「また」「ですから」など

難しい言葉は辞書で調べる。

### 4. 単元の指導計画（14時間扱い 本時4 / 14）

- |        |  |             |
|--------|--|-------------|
| [つかむ]  | 全文を通読して、調べてみたいことを書き出す。                                   | } . . . (1) |
| [みとおす] | 単元全体を見通し、学習計画を立てる。                                       |             |
| [ふかめる] | 教材文をまとまりに分けて、段落ごとに説明と体験を比べて読む<br>. . . . . (5)           |             |
|        | ・全文を通読し、三つのまとまりに分ける。<br>「話題提示」「例を挙げての説明」「話題についてのまとめ」     |             |
|        | ・教材文「話題提示」のまとまりの内容を接続語や指示語に着目しながら読み取る。                   |             |
|        | ・説明1（自分で自分を守るための仕組み）の内容を詳しく読み取る。<br>. . . . . (本時)       |             |
|        | ・説明2（微生物と戦う仕組み）の内容を詳しく読み取る。                              |             |
|        | ・第3のまとまりから筆者の願いを読み取り、自分の考えを持ち、残された課題を整理して次の学習へつなげる準備をする。 |             |
| [まとめる] | もっと知りたいことや疑問なことなどの課題を作り、調べる。<br>. . . . . (2)            |             |
|        | 分かりやすいまとめ方を考え、調べたことを文章に書く。<br>. . . . . (4)              |             |
| [ひろげる] | 「これが、『わたし』です・作品展示会」をする。<br>. . . . . (2)                 |             |

5 本時の指導

(1) 目標

・自分で自分を守る仕組みとは、どのようなものなのか、読み取ることができる。

(2) 具体の評価基準

A：重要語句とそれに対応する述語をみつけ、微生物を体の中に入り込ませない仕組みについて読み取り、まとめることができる。

B：重要語句とそれに対応する述語をみつけ、微生物を体の中に入り込ませない仕組みについて読み取ることができる。

(3) 展開

	学習内容と活動	学習上の配慮事項	評価観点
つかむ 5分	1. 前時の学習を想起する。 2. 本時の学習場面を確認する。 3. 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分で自分を守るための仕組みとは、どのようなものなのだろう。</div>	接続語の意味や、指示語の指し示す内容を考えながら読み進めたことを想起させる。 5段落から8段落を読み取っていくことを確認する。  全員で一度読ませる。	[読む] 前時の学習を想起することができたか。
みとおす 8分	4. 本時の学習場면을音読する。 5. 課題解決に向けて見通しをもつ。 ・重要語句の見つけ方と、要約文の作り方を確認する。	全員で一斉に、前後のつながりも分からせるために、4段落から9段落まで音読させる。  5段落は、一斉指導で取り扱いやり方に見とおしを持たせるようにする。	[読む] 正しく読むことができたか。 観察
ふかめる 26分	6. 課題解決に取り組む。 ・各段落にかかっている文章から重要語句をみつけて、要約文を作る。  ・このほかにも、わたしたちの体には自分を守るための仕組みがあるのか考える。	6段落は、重要語句を確認し、作業に入らせるが、7段落は自力解決させるようにする。 [支援] 6段落～7段落まで要約文を作らせるが、支援が必要な児童には、ワークシートを用い、重要語句は見つけられるようにし、要約文を作らせる。  自分で自分を守るための仕組みは、これだけでないことを確認する。	[読む] 重要語句を見つけながら仕組みを読み取ることができたか。 [書く] 要約文を作ることができたか。 ノート、ワークシート [意欲] 自分の考えを

	・自分で自分を守る仕組みとは、どんな仕組みかを考える。	5段落から7段落までの仕組みは、微生物が体の中へ入れないようにする仕組みであることをとらえさせる。	伝えることができたか。 発表
まとめ 3分	7.本時の課題についてまとめる。	各段落ごとに要約した文を読んでまとめとする。	
ひろげる 3分	8.本時の学習場面を音読する。 9.次時の予告をする。	次時は、微生物と戦う仕組みについて読み取っていくことを知らせる。	

(4) 評価

- ・自分で自分を守る仕組みとは、どのようなものなのか、読み取ることができたか。

( 5 ) 板書計画

体を守る仕組み

中村 佳子

自分で自分を守るための仕組みとは、  
どのようなものだろうか。

(まず)

皮ふ 入れない  
落とす

皮ふは、微生物を入れない。あかになって落  
とす。

(それから)

なみだ 流す  
殺す

なみだは、微生物を流す。しかも、殺す働き  
もある。

(これらとともに)

せん毛 おし出す

せん毛は、微生物を外へ外へとおし出す。

せん毛の写真

このほかに、自分を守る仕組みは、たくさ  
んある。

自分で自分を守る仕組みとは、微生物を体  
の中へ入れない仕組みである。